

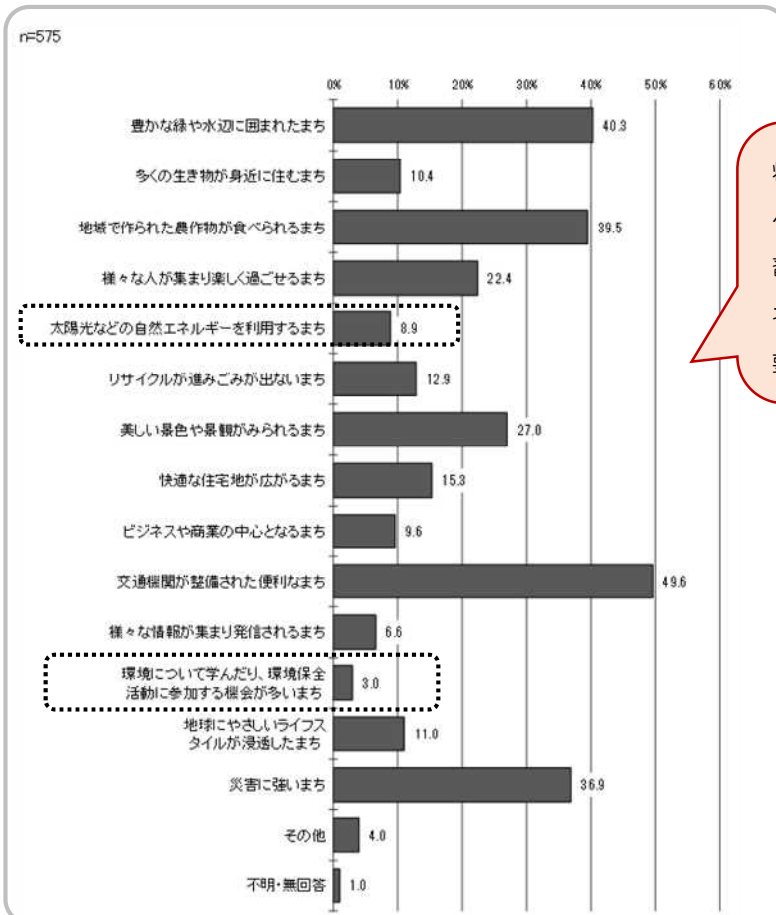
久御山町環境基本計画(久御山町地球温暖化対策実行計画「区域施策編」含む)策定にかかるアンケート調査【調査結果報告書 概要版】

I 調査方法及び回収結果

項目	住民アンケート	事業所アンケート	中学生アンケート
調査対象者	町内在住の 18 歳以上 2,000 人（無作為抽出）	久御山町に拠点のある事業所 1,341 社	久御山町内の中学生 404 名（1 年生 126 名、2 年生 130 名、3 年生 148 名）
調査期間	令和 4 年 12 月 5 日（月）～ 令和 4 年 12 月 19 日（月）	令和 4 年 12 月 12 日（月）～ 令和 4 年 12 月 26 日（月）	令和 5 年 1 月上旬実施
調査方法	郵送による調査票の配布・郵送による回収または WEB での回答	学校での調査票の配布・WEB での回答	
配布数	2,000 件	1,341 件	404 件
有効回収数	575 件	229 件	342 件
有効回収率	28.8%	17.1%	84.7%

II 住民アンケート調査結果

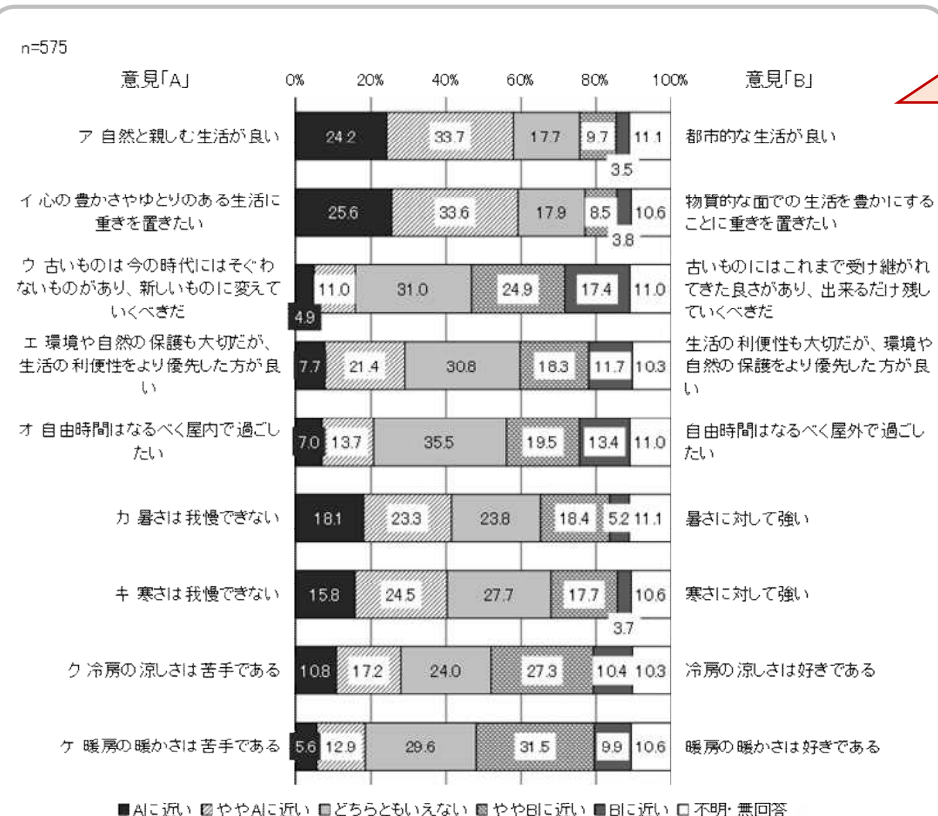
■将来の久御山町の環境について ※調査票 問3



将来の環境について、生活する上での自然環境や交通機関等への割合が高い一方、「自然エネルギーの利用」や「環境学習・活動」への割合が低くなっていることから、再生可能エネルギーの啓発・周知や環境学習・活動の機会を創出する必要があります。

環境に関する取組について、何かしらの「関心・興味」がある方がすべての項目で半数以上と多く、住民の環境への意識が高いことがうかがえます。一方、他の項目に比べ「イ、脱炭素社会の形成」の関心が低いことから、脱炭素社会に関する内容の周知・啓発の充実やワークショップの開催等、参画機会を創出するなど、協働意識を醸成する必要があります。

■これからの久御山町の環境について ※調査票 問4



これからの久御山町について、「物質的な豊かさよりも心の豊かさ」、「都市的な生活よりも自然と親しむ生活」などを重んじていることが見受けられます。

■地球温暖化防止につながる機器や設備などの導入状況 ※調査票 問10

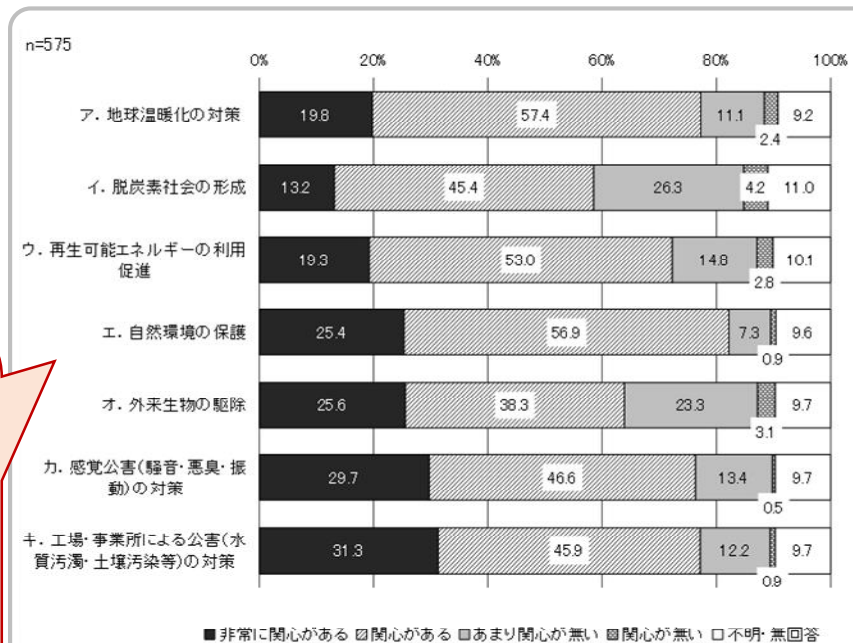
「既に導入済」では、[キ、LED などの高効率照明] (62.3%) が最も多く、次いで [オ、エコジョーズ、エコウィル、エコキュートなど、効率の良い給湯器] (35.8%)、[カ、電力消費や待機電力の少ない家電製品] (30.4%) となっています。

「導入してみたい」では、[カ、電力消費や待機電力の少ない家電製品] (36.9%) と最も多く、次いで [コ、排出ガスが少なく燃費の良い自動車] (28.3%)、[ク、家庭用燃料電池システム（エネファーム）や蓄電システム] (26.6%) となっています。

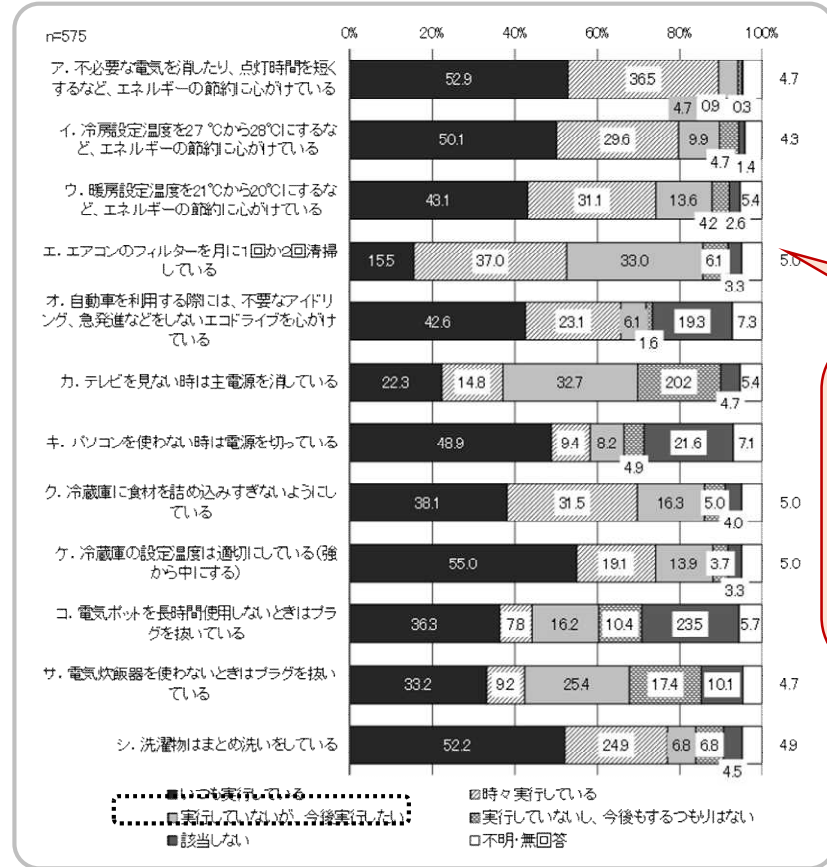
■「ソーラーシェアリング」、「ソーラーカーポート」の認知度 ※調査票 問11、13

「ソーラーシェアリング」では、「言葉を知らなかった」が 61.7%、「ソーラーカーポート」では、「言葉を知らなかった」が 54.4% となっています。

■環境に関する取組について ※調査票 問5

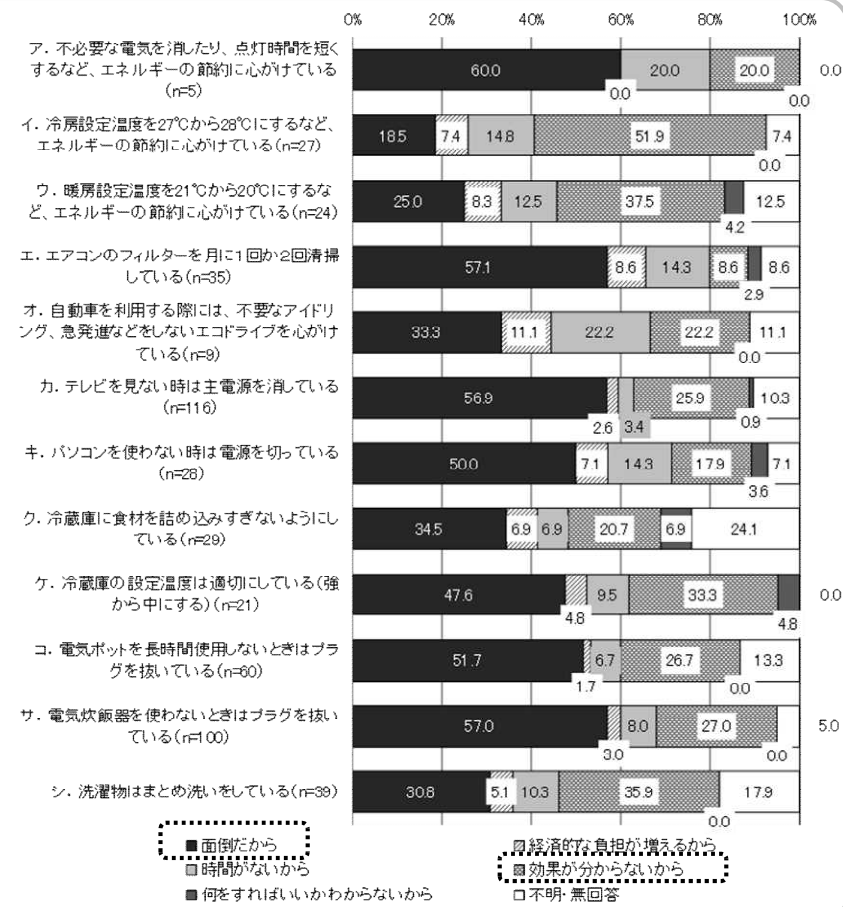


■よりよい環境づくりのために普段の行動について ※調査票 問 7



「カ. テレビを見ない時は主電源を消している」「サ. 電気炊飯器を使わないときはプラグを抜いている」は『実行していない』『今後実行したい』への回答が多くなっているものの、「実行していないが、今後実行したい」の割合が比較的高く、今後、行動変容に対する期待が見受けられます。

■「実行していないし、今後もするつもりはない」理由 ※調査票 問 7



特に「効果がわからない」と回答した項目については、取組効果を周知する必要があります。また、「面倒だから」が概ね高い割合となっており、環境への取組に対して、行動しない主たる理由は「面倒くさい」という意識であることから、省エネ行動の効果を啓発するとともに、家庭や学校で生活習慣として取り組む意識の醸成が必要と考えられます。

■久御山町の環境に関する重要度と満足度について ※調査票 問 22

【満足度】

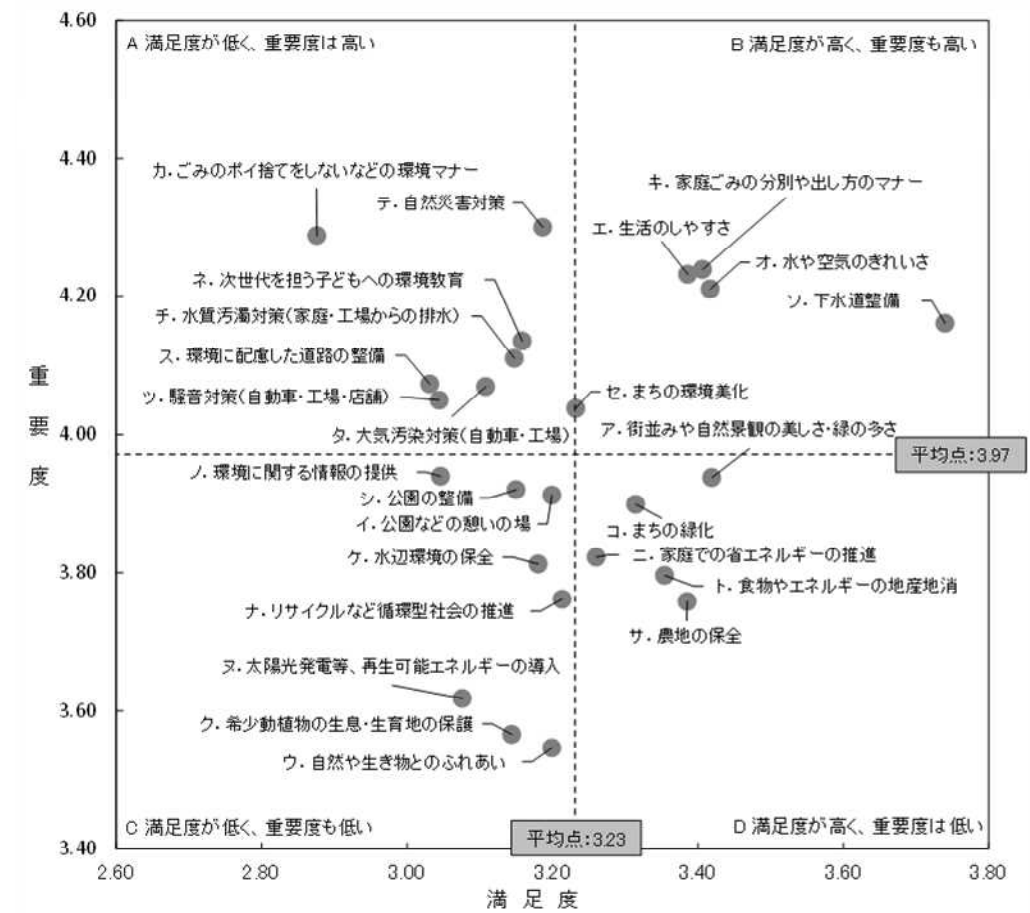
『満足(「満足」と「まあ満足」の合計)』では、[ソ. 下水道整備]が61.6%と最も多く、次いで[キ. 家庭ごみの分別や出し方のマナー]が52.9%、[エ. 生活のしやすさ]が52.2%となっています。『不満(「不満」と「やや不満」の合計)』では、[カ. ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー]が35.3%と最も多く、次いで[ス. 環境に配慮した道路の整備]が23.2%、[シ. 公園の整備]が22.6%となっています。

【重要度】

『重要(「非常に重要」と「重要」の合計)』では、[カ. ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー]が81.2%と最も多く、次いで[キ. 家庭ごみの分別や出し方のマナー]が79.5%、[オ. 水や空気のきれいさ]が78.0%、[エ. 生活のしやすさ]が77.7%となっています。

『重要ではない(「重要ではない」と「さほど重要ではない」の合計)』では、いずれも1割未満となっています。

【分布図】



久御山町の環境に関する重要度・満足度をみると、[カ. ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー][テ. 自然災害対策]の満足度が低く、重要度が高くなっています。特に「A.満足度が低く、重要度が高い」項目への対応が求められます。また、「B.満足度が高く、重要度も高い」「D.満足度が高く、重要度は低い」項目については、継続的かつ検証をふまえた取組、「C.満足度が低く、重要度も低い」項目については、取組の周知等を図る必要があります。

【点数化の説明】

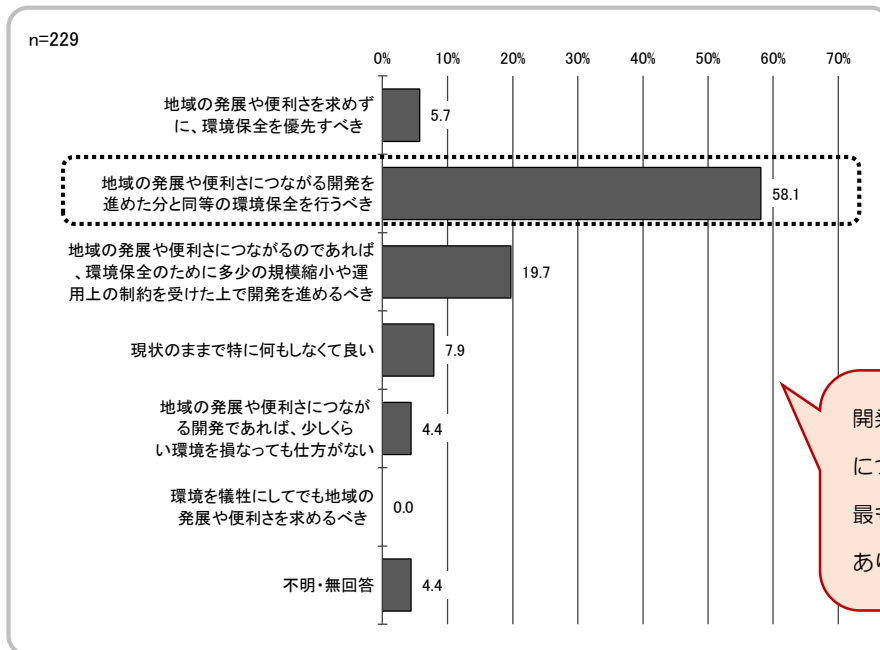
各施策に対する市民の評価を点数化し、満足度と重要度の2つの指標に集約することで、市民からみた施策の位置づけを示している。点数化の方法は以下の通り。

満足度: 各項目について、「満足」を5点、「まあ満足」を4点、「どちらともいえない」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点とした各回答の合計点を、不明・無回答を除いた回答者数で除し、平均点を算出

重要度: 各項目について、「非常に重要」を5点、「重要」を4点、「どちらともいえない」を3点、「さほど重要ではない」を2点、「重要ではない」を1点とした各回答の合計点を、不明・無回答を除いた回答者数で除し、平均点を算出

Ⅲ 事業所アンケート調査結果

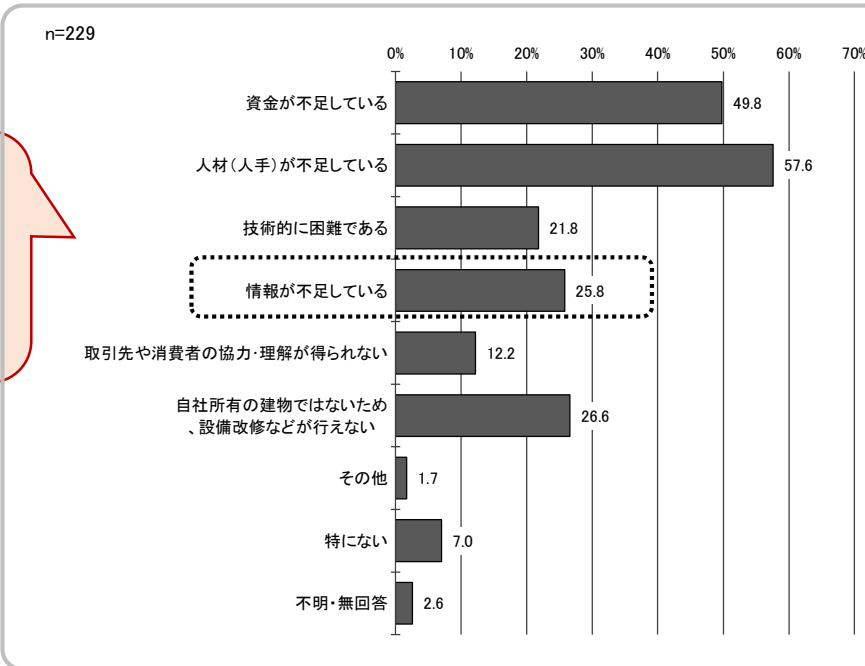
■開発と環境保全のバランスについて ※調査票 問2



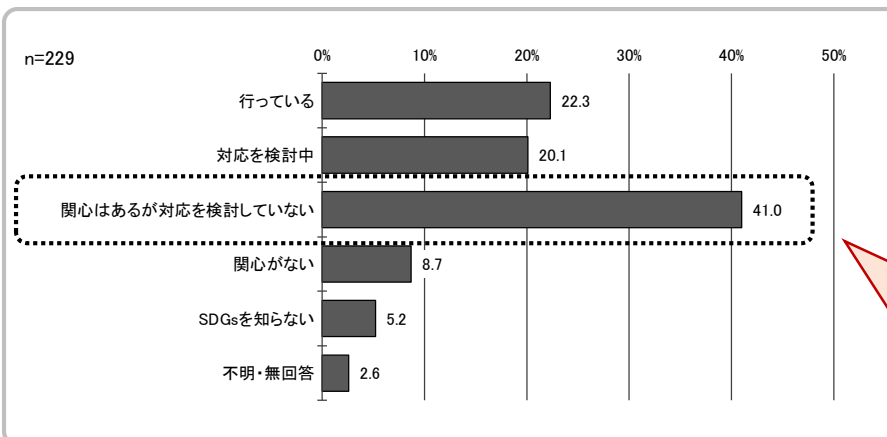
開発と環境保全のバランスについて、「地域の発展や便利さにつながる開発を進めた分と同等の環境保全を行うべき」が最も多く、開発と環境保全をバランスよく進めていく必要があります。

環境保全に取り組む上で、事業所の状況が上位を占めている中、「情報が不足している」という回答もあがっています。住民に対してだけでなく、事業所への効果的な情報発信を行う必要があります。

■環境保全に取り組む上で課題について ※調査票 問3

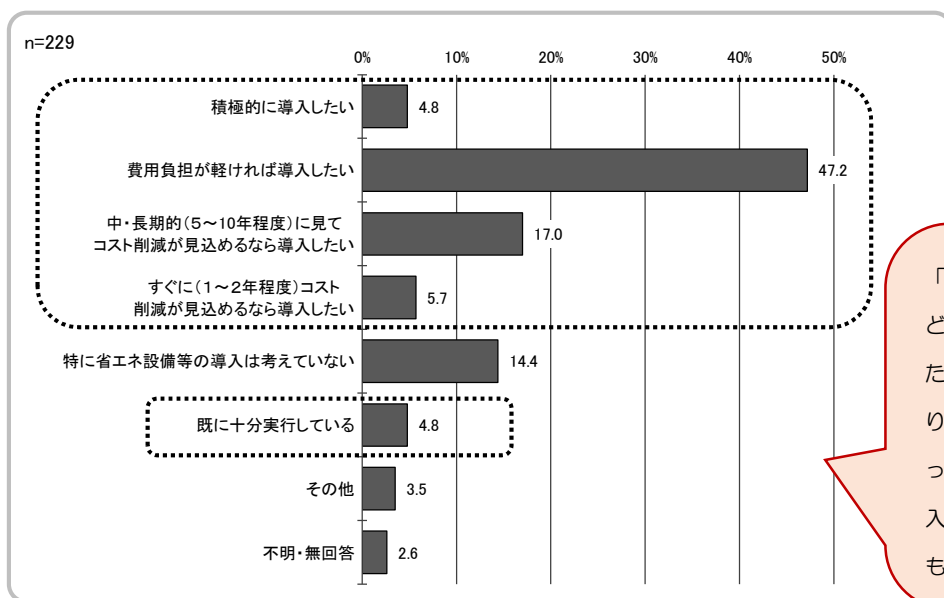


■SDGs への貢献の視点を持った経営、事業活動について ※調査票 問4



事業者においても SDGs への関心が高まっているものの、「関心はあるが対応を検討していない」との意見が多く、今後も SDGs への貢献の視点を持った経営、事業活動の重要生について啓発を行う必要があります。

■「建物の断熱化」や「高効率機器の導入」などの省エネ対策について ※調査票 問5



「建物の断熱化」や「高効率機器の導入」などの省エネ対策について、何かしら『導入したい』と考えている割合は約8割となっており、各事業所の状況に応じた対応が必要となっているとともに、「特に省エネ設備等の導入は考えていない」事業所への周知・啓発にも努める必要があります。

■電力の地産地消について ※調査票 問12 問17

【再エネ設備を保有の有無】※調査票 問12

「保有していない」(85.2%)が最も多く、次いで「保有している」(7.4%)、「よく分からない」(7.0%)となっています。

【太陽光発電等を初期費用無償設置できる事業(PPAモデル)について】※調査票 問17

「よく分からない」(41.5%)が最も多く、次いで「テナント等で設置することができない」(23.1%)、「導入したい」(17.9%)となっています。

■カーボンニュートラル(脱炭素社会)に向けた事業の取組について ※調査票 問22 問25

【カーボンニュートラル(脱炭素社会)に関わる事業状況】※調査票 問22

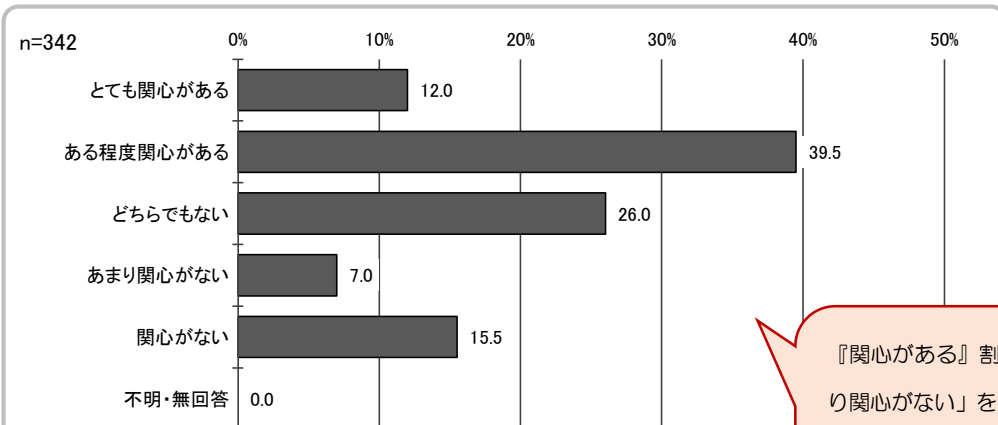
「行っていない」(94.3%)が、「行っている」(3.5%)を上回っています。

【今後のカーボンニュートラル(脱炭素社会)に関する事業予定】※調査票 問25(問22で「行っていない」と回答した方)

「今後も特に行う予定はない」(83.8%)が最も多く、次いで「今後新規事業を検討中」(10.6%)、「その他」(5.1%)となっています。

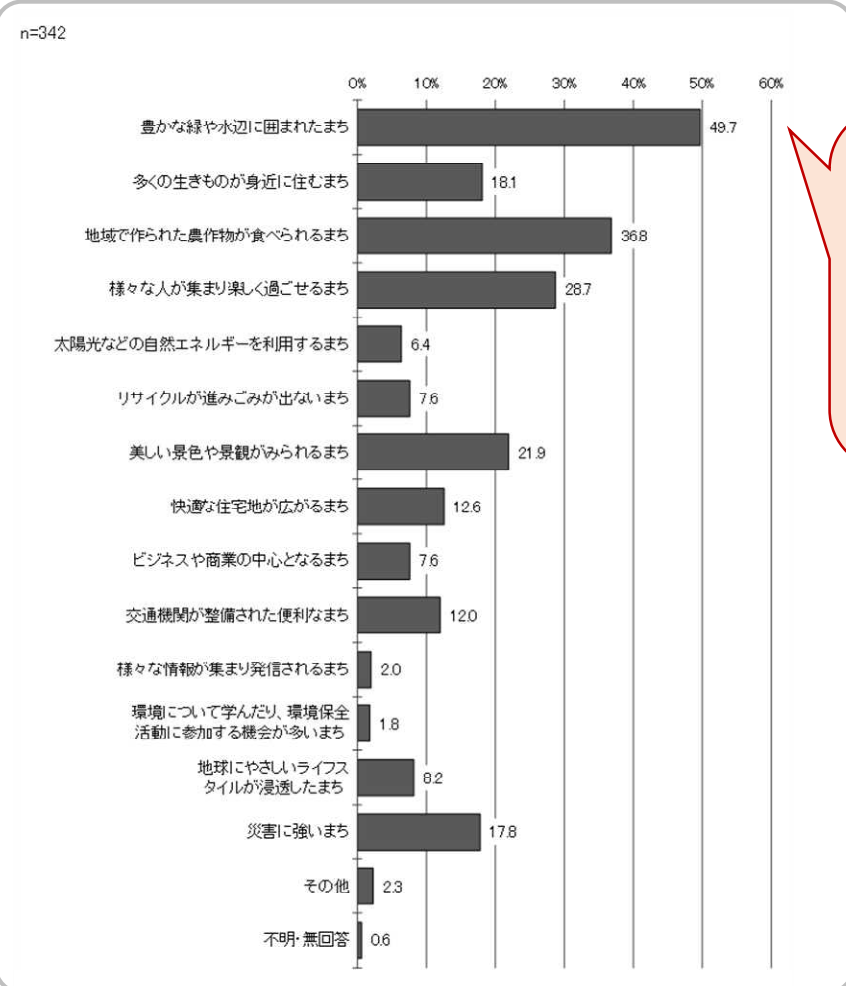
IV 中学生アンケート調査結果

■環境への関心度について ※調査票 問1



『関心がある』割合が多い一方で、「関心がない」が「あまり関心がない」を上回っていることから、今後、環境意識の充実に努めるとともに、まちへの愛着（アイデンティティ）等を醸成する必要があります。

■将来の久御山町の環境を表すキーワードについて ※調査票 問6



将来の久御山町の環境を表すキーワードについて、「豊かな緑や水辺に囲まれたまち」「地域で作られた農作物が食べられるまち」は住民アンケートでも上位にあがっていました。また、事業所アンケートにおいても、開発と環境保全をバランスよく進めていく必要がある意見が多いことから、環境保全に取り組みつつ、各種施策を展開する必要があります。

■家や学校のまわりの環境に関する重要度と満足度について ※調査票 問5

【満足度】

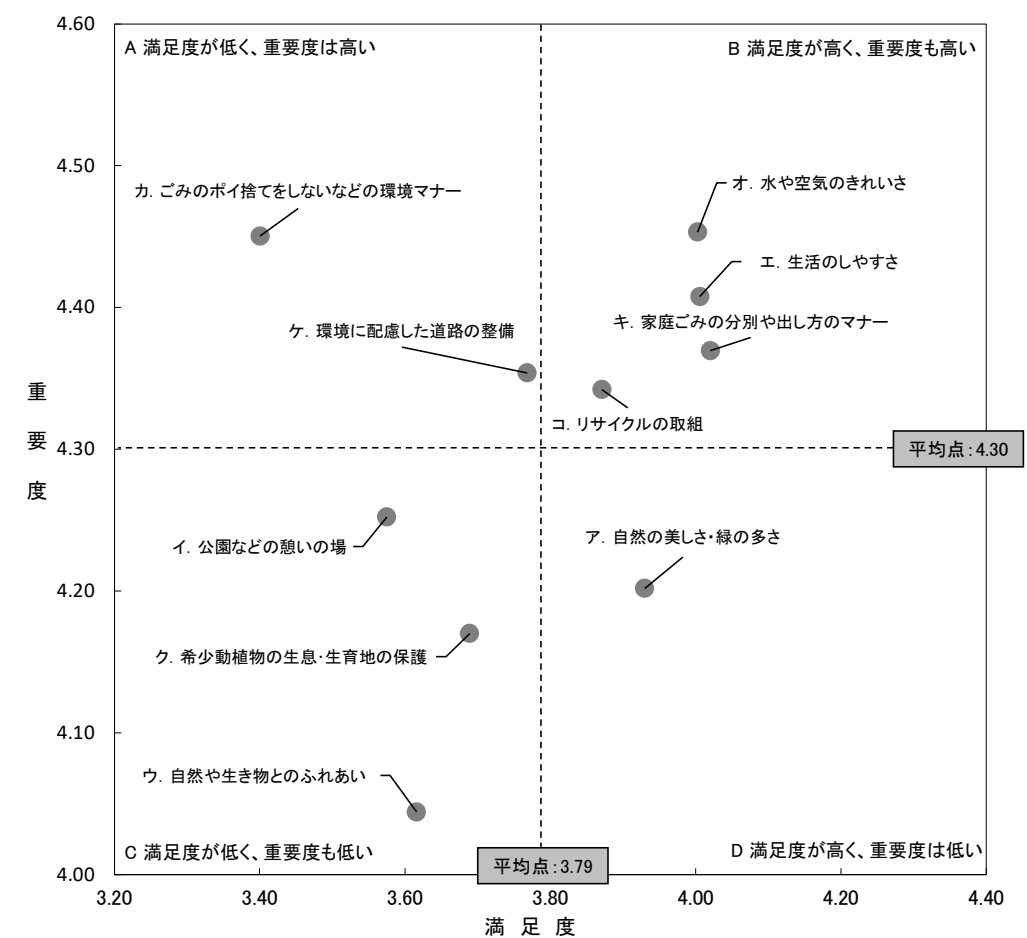
『満足（「満足」と「まあ満足」の合計）』では、[エ. 生活のしやすさ]（72.5%）が最も多く、次いで[オ. 水や空気のきれいさ]（71.1%）、[キ. 家庭ごみの分別や出し方のマナー]（70.2%）となっています。『不満（「不満」と「やや不満」の合計）』では、[カ. ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー]（21.6%）と最も多く、次いで[イ. 公園などの憩いの場]（16.1%）、[ウ. 自然や生き物とのふれあい]（12.6%）となっています。

【重要度】

『重要（「重要」と「まあ重要」の合計）』では、すべての項目で7～8割台となっていますが、「ウ. 自然や生き物とのふれあい」「ク. 希少動植物の生息・生育地の保護」で7割台前半と他の項目と比べて低くなっています。

『重要ではない（「重要ではない」と「あまり重要ではない」の合計）』では、いずれの項目も1割未満となっています。

【分布図】



家や学校のまわりの環境についての重要度・満足度をみると、〈カ. ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー〉〈ケ. 環境に配慮した道路の整備〉の満足度が低く、重要度が高くなっています。特に「A.満足度が低く、重要度が高い」項目への対応が求められます。また、「B.満足度が高く、重要度も高い」「D.満足度が高く、重要度は低い」項目については、継続的かつ検証をふまえた取組、「C.満足度が低く、重要度も低い」項目については、取組の周知等を図る必要があります。

【点数化の説明】

各施策に対する市民の評価を点数化し、満足度と重要度の2つの指標に集約することで、市民からみた施策の位置づけを示している。点数化の方法は以下の通り。

満足度: 各項目について、「満足」を5点、「まあ満足」を4点、「どちらともいえない」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点とした各回答の合計点を、不明・無回答を除いた回答者数で除し、平均点を算出

重要度: 各項目について、「非常に重要」を5点、「重要」を4点、「どちらともいえない」を3点、「さほど重要ではない」を2点、「重要ではない」を1点とした各回答の合計点を、不明・無回答を除いた回答者数で除し、平均点を算出